

花山自治区
保存版

みんなで楽しく未来をつくろう!



しもやまスマイルプラン

あなたの行動が「しもやま」を変える!

**WE
LOVE
しもやま**

2021.4 - 2026.3

まちづくりに大切な2つのこと

1 『WE LOVE しもやま』

～下山への愛情と誇りを高める合言葉～
下山には、たくさんのLOVEがあふれています。
下山への想いを、みんなで形にしていましょ!

2 みんなで楽しく 未来をつくろう(共働)

住民が中心となって行う活動、行政が取り組む事業、
事業者が地域のために行うこと、
みんなで一緒に取り組むこと。
同じ方向を見て、**共働**で楽しく活動しましょう!



新しくなった
「WE LOVE しもやま」のロゴマーク

周りにある18の円は11分野と
7つの自治区を表しています。

しもやまスマイルプランって何?

しもやまスマイルプランは、「下山の10年後の将来像」を見据えて、「まちづくりの方向性」を定め、事業を実施するための「具体的な取組」をまとめた、みんなが行動するための計画です。取組の内容は、11の分野と7つの自治区で、それぞれ検討しました。

まちづくりの方向性(10年間)

具体的な取組(5年間)

後期の取組

10年後の
将来像

下山の10年後の将来像

子どもの声が聞こえ、
笑顔で暮らせるまち
しもやま



みんながめざす下山のまちづくりの方向性

下山に関わる人を増やして活力あるまちづくり

- 「定住人口」を減らさない取組にチャレンジします。
- 観光客などの「交流人口」と住民との交流の機会を積極的につくります。
- 地域活動への参加者の増加をめざして、「関係人口」を増やします。

住民主体の地域活動で持続可能なまちづくり

- 住民一人ひとりが地域の運営を考え、住民による自治活動を次代に引き継ぎます。
- まちづくりに関する地域内の団体が、そのあり方や活動内容を見直し、より適正な運営に努めます。
- 自治区と地域の関係団体、行政との連携を強化して、地域活動を活性化させます。

「安心感」と「わくわく感」が実感できるまちづくり

- 子どもからお年寄りまで、誰もが安心して生活できる環境をつくれます。
- 下山を盛り上げるために「やってみたい」ことを実現できるように、みんなで応援する機運を醸成します。
- 下山地域外からの来訪者が、親しみやすく、楽しめる環境づくりを行います。

具体的な取組

花山自治区の取組は、
裏面をご覧ください。

発行	下山地域まちづくり推進協議会	2021年3月
問合せ	電話	0565-90-2111(事務局下山支所)
	FAX	0565-90-3344
	メール	shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp



花山自治区プラン

対象のエリア 蕪木町、下山田代町、田折町、花沢町

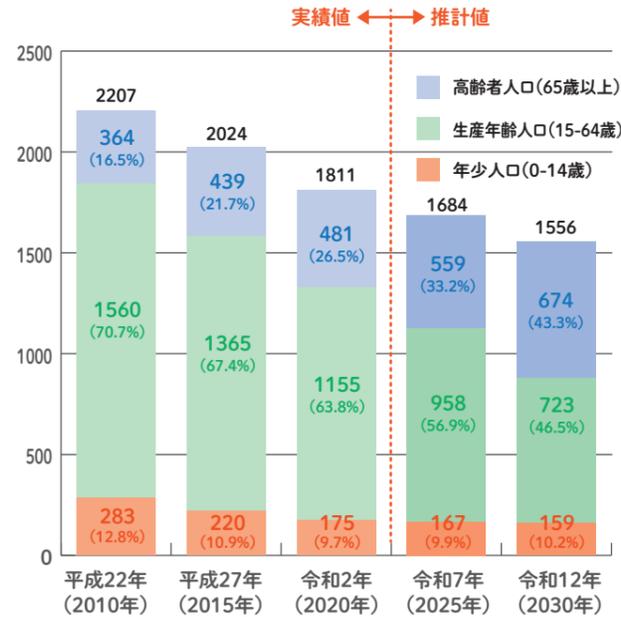
1 花山自治区の現状

人口の減少、高齢化の進行

- 令和2年の人口は1,811人であり、この10年間で396人減少しています。14歳以下の年少人口、15歳から64歳の生産年齢人口は大きく減少し、65歳以上の高齢者人口は増加しています。
- この傾向が今後も続くと、令和12年の人口は1,556人とさらに減少し、年少人口、生産年齢人口の減少、高齢者人口の増加は進み、高齢化率は43.3%になると予想されます。

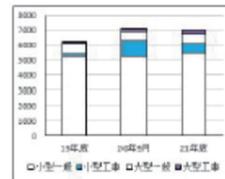
人口減少の影響と住民の心配ごと

- 住民の減少、特に子ども・子育て世代の減少により、花山小学校の児童が減少しています。
- 地域への愛着は感じているものの、自治区活動への関心が薄く参加率が低迷しています。
- 令和元年8月の住民アンケート調査では、子どもの遊び場、買い物の不便さなどが挙げられています。
- 特に、テストコースの本格稼働により、交通量の増加に伴う交通事故、交通渋滞の増加が心配されています。



年齢別人口のこれまでの推移と今後の推計
 ※各年10月1日年齢は学齢
 (実績値は住民基本台帳、推計値は豊田市下山支所の推計)

国道301沿い(花沢町)の工事車両の台数予測(日当り往復台数)



- 小型車(作業員通勤)は減少の見込み。
- 大型車(ダンプ等)は若干増加の見込み。
- 2023年12月頃まで大型車: 200台/日(往復計)程度の見込み

2 花山自治区の10年後の将来像

- ▼ 移住者の受け入れが盛んになっており、地域ぐるみで空き家や遊休地活用の意識が高まっています。
- ▼ 子どもやお年寄りが、安心感をもって暮らしやすい地域となっています。
- ▼ 自治区活動の意識が向上し、防災訓練などの自治区行事に積極的に参加する人が増えています。
- ▼ 周辺地域や地区内事業所との情報交換の場が設けられ、良好な関係が築けています。また、テストコース本格稼働による交通渋滞緩和などへの対策を協力して行っています。
- ▼ 周辺地域や事業所・従業員との交流やイベントが行われ、新しい賑わいもできています。そうした取組をきっかけにして、花山への転入者が増え、若い人や子どもも増えています。

3 花山自治区の5年間の取組

取組1 地域をあげた移住者の受け入れ態勢と受皿づくり

人口減少が進む中、今後の自治区活動を維持するためにも、移住者を受け入れ、地域活動の担い手につなげる取組が急務になっています。そのため、移住者を地域の一員として受け入れる土壌と、受皿となる空き家の発掘を進める必要があります。また、移住後の生活サポート体制を整えるなど、地域をあげて移住者を受け入れる態勢と受皿づくりに取り組んでいきます。

取組2 子どもやお年寄りが集える場所づくり

自宅以外で子どもが遊ぶ場所、高齢者が過ごす場所が求められるため、自治区内にある集いの場の掘り起こしと周知を行います。また、地区内の子どもと高齢者を集めた三世代交流イベントを実施し、集いの場を創出します。さらに、自治区活動の拠点となる区民会館(仮称)建設に向けての検討を行います。

取組3 区民が自治区活動に参画したくなる地域づくり

暮らしやすい地域づくりを推進するためには、区民が自治区活動を理解し、活動へ参画しながら自治区を盛り上げていくことが重要です。そのため、自治区活動の啓発と区民の意見を伝えやすい場を提供するとともに、自治区活動をサポートする仕組みや区民による主体的な活動意識を育てる仕組みを創出します。また、自治区備品の貸出を見える化し、区民の地域活動支援や非常時の共助体制を整えます。

取組4 周辺地域、地区内事業所との関係づくり

自治区の更なる発展のためにも、周辺地域や地区内事業所との関係性を密にすることが求められています。このため、相互の情報交換の場や、共同作業による景観整備などを通じて互いに信頼関係を築き、安全で活気あるまちづくりを進めていきます。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
1 地域をあげた移住者の受け入れ態勢と受皿づくり	受入勉強会の検討及び開催 / 空き家発掘及び啓発活動 移住後の生活サポート支援の検討及び実施				
2 子どもやお年寄りが集える場所づくり	集いの場の洗出し・検討	集いの場の周知 活用方法周知	新たな集いの場や区民会館の検討		
	イベント部会設置 イベント内容検討	三世代交流イベント			
3 区民が自治区活動に参画したくなる地域づくり	区民意見の目安箱準備 花山版わくわく事業準備 備品貸出制度及び 非常時の共助体制準備	目安箱運用 / 花山版わくわく事業運用	区民集いの場準備	区民集いの場実施	
	備品貸出啓発及び非常時の共助体制運用				
	ちょこっとパートナー募集				
4 周辺地域、地区内事業所との関係づくり	事業所との関係構築 顔合わせ・意見交換 アンケート等				
	交通インフラ整備、充実 / 獣害、草刈等協働実施など				
	社会学習支援の充実、交流の場創出				